

肝臓病患者への メンタルケア インフォームドコンセント

岩手医科大学附属病院

三浦幸枝

2011/3/9

慢性疾患患者の特徴

慢性病は長期的で、不確かで、不経済で多くの場合重複していて、極めて侵害的であり、治癒不可能なので姑息的である

さまざまな
制約の中で生きていかなければならない

慢性疾患患者の心理的特徴

- 病気の認知は緩徐に始まる
- 予期的悲嘆のプロセスを踏む
- クライシス（危機的状況）を招く
- 疾患は身体に先行し、
心理・社会的に後追いし悩む
- 自己概念の変化をもたらす

慢性疾患の自己管理のポイント

治療のマネージメント

社会生活のマネージメント

感情のマネージメント

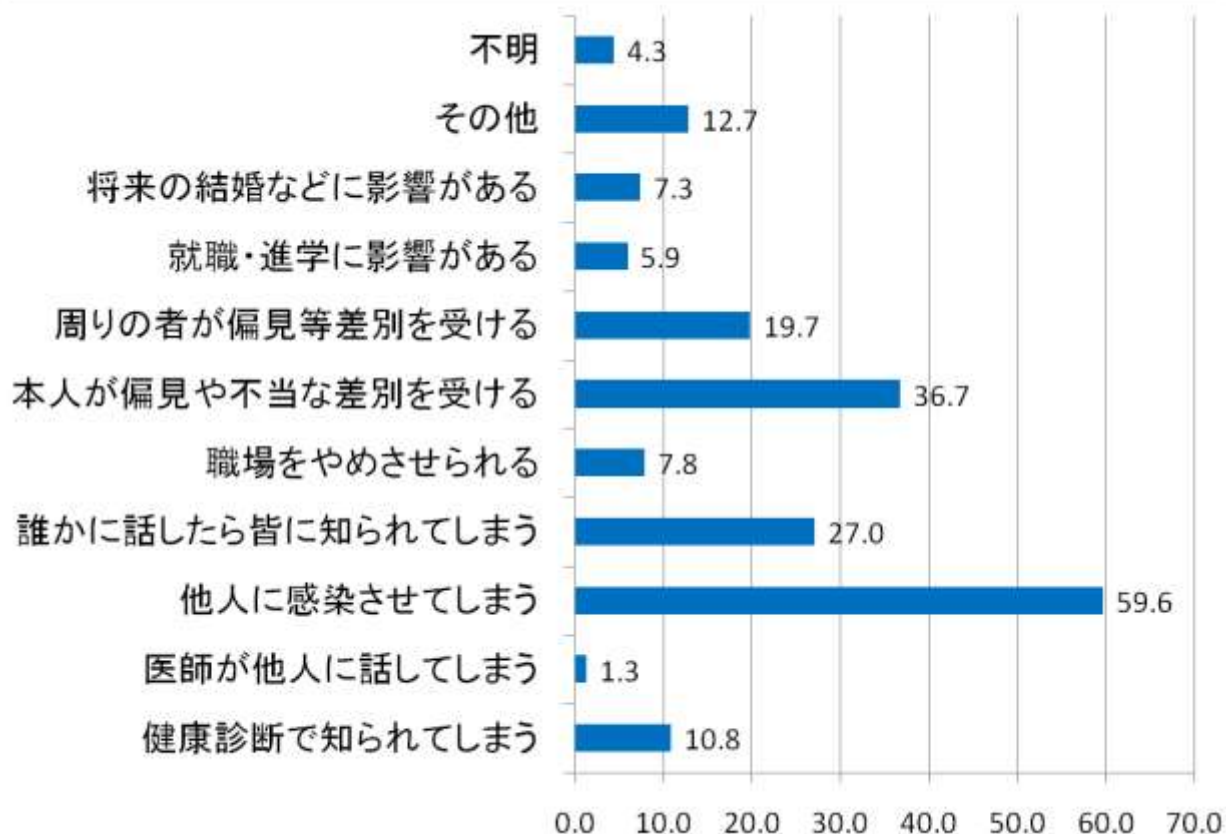
慢性疾患を持つ人が抱える課題

- ① 症状に対する医学的見地からの治療
（身体的問題）への対処
- ② 症状に伴う、生活の変化
（社会的問題）への対処
- ③ 疾患がもたらす精神的影響
（精神的問題）への対処



慢性の病気を持つ人が抱える問題は、
「病気そのもの」だけではない

肝疾患患者の不安の内容



肝臓病患者の生活と医療の実態：肝臓病患者実態調査研究会1997年

肝疾患患者のもつ不安の原因

病気に関する知識
がない事で生じる
不安

孫にうつらないですか
ウイルスが消えるか心配
治療を最後までできるか

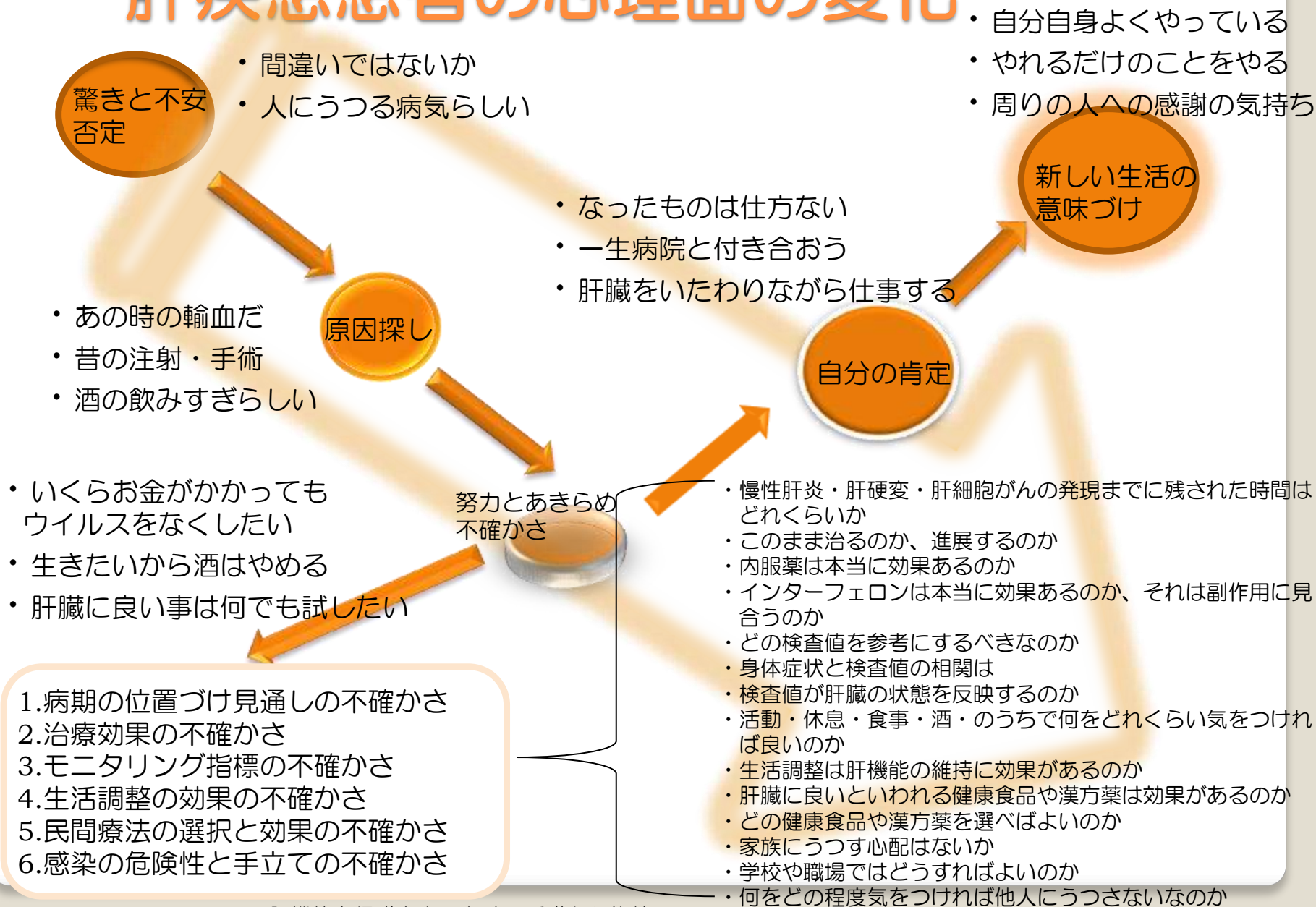
情報の
提供

病気を抱えること
で生じる不安

何で私が
介護で治療が遅くなった
ガンになったらどうしよう
生きていてもしょうがない

傾聴

肝疾患患者の心理面の変化



慈愛欲求

- ・人を大切にしたい
- ・尊重したい
- ・認めたい
- ・愛したい
- ・受け入れたい
- ・見守りたい

自分が他者の欲求を充足することで満足する
欲求

自己信頼欲求

自分で自分の欲求を充足させ
満足する欲求

- ・自分を大切にしたい
- ・好きになりたい
- ・成長させたい
- ・ほめたい

慈愛願望欲求

他者に自分の要求を充足されることで満足する
欲求

- ・自分の価値観を
分かって欲しい
- ・人に認められたい
- ・尊敬されたい
- ・思うようになって
欲しい

心の本質的欲求

介入時の看護師の姿勢 ①

観察

キーワード「言語的表現」

話の中から、相手が分かってもらいたいと思っている
キーワードを見つけ、その言葉を繰り返す。
感情をこめて。

例えば：「仕事でうまくいかないことがあってね、
イライラしているの」
「そう、**イライラ**しているんだね。」

話している人も、理解してもらえた、
共感してくれたと感じ安心できる。



気持ち用語
感情用語を
キャッチする

観察 キーメッセージ（非言語的表現）

声と目と顔の表情の変化

1. タイミング良いうなずき

うなずきは、相手に対して「話をちゃんと聞いている」と伝える最良の方法。

あいずちの引き出しをたくさん増やす。

2. 相手と同じ表情

表情や声のトーンを相手に合わせる。

3. ペースを合わせる

ゆっくり話しているならゆっくり対応する。

鏡のように、相手の表情に自分の表情を一致させ相手の呼吸に合わせる。

ジェスチャー
姿勢の変化

介入時の看護師の姿勢 ②

傾聴

ブロッキングをはずす（自分の思いは脇によける）
解釈・思い込み・評価・好奇心
時間が気になるなどは、傾聴を妨げる

確認

ミラーリング効果
ポイントがずれていないか確認する
「～ということですか」
患者の表情がいきいきしてくるまで確認する

介入時の看護師の姿勢 ③

共感的理解



心理的安心感
心を開く作用
癒しの力

話し相手の状況を自分の中にイメージする。
深い共感では心が動く、あるいはジーンとする
など自分の中に身体的変化が起きる。

肝疾患患者のメンタルケア

- ・ 病期に沿った治療を理解すること
- ・ 家族や医師とのコミュニケーションをはかること
- ・ 日常生活の管理
- ・ 自分の感情に対処する

生活の中に取り入れる援助

肝機能を維持し
ながら元気に
生きる

インフォームドコンセントの基本理念

- 医療従事者からの十分な説明
- 患者の『理解』と『納得』 『同意』 『選択』
- 『同意』とは医療者側、患者側双方の意見の一致である。

インフォームドコンセントの現状 ①

患者家族の心理

- 根掘り葉掘り聞くのは、専門家に対して失礼な気がする。（医師を信じていないかと思われるのではないかと気兼ねする。）
- 先生の言うとおりにすれば間違いは無い
（黙って命預けます）
理想的な信頼関係と思いがち
- 以心伝心（日本型的思い込み）
言わなくても先生は自分にとって最良のことを考えてくれている（病気は医者が直してくれると思っている）

インフォームドコンセントの現状 ②

医療現場の現状

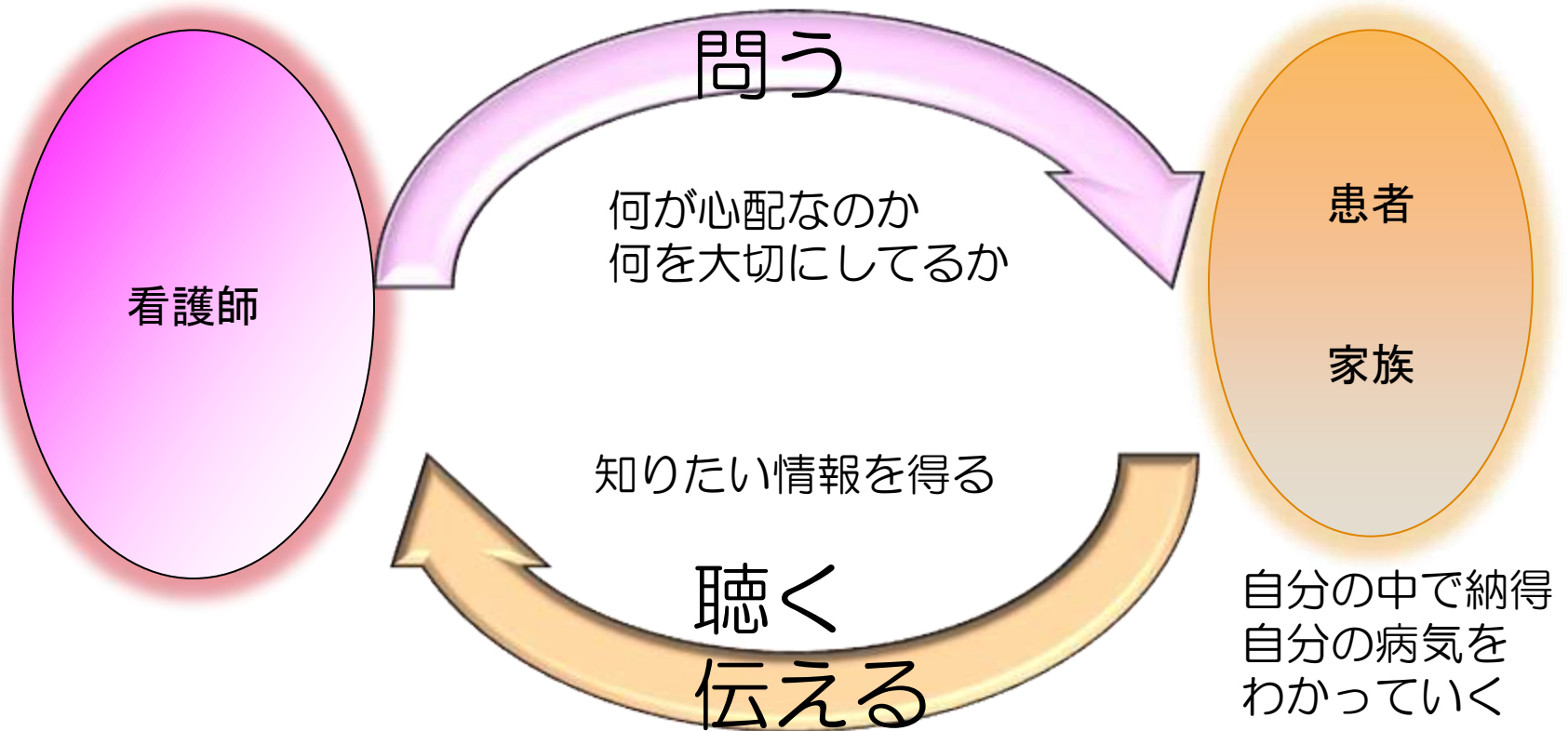
- 説明と承諾を二大要素としている
- 専門用語を使用した一方的な説明
- 説明に従って当然という無意識の権利
- 再度説明を希望してもすぐには叶えられない
- 看護ケアの場面でのインフォームドコンセントの不足
- 代弁者としての役割が発揮できない

患者が求めている

IC時の看護師の役割

- 患者の言葉に耳を傾ける
- 疑問に答える
- 良い人間関係・信頼関係を築こうと努める
- 看護師全員が一貫した姿勢で応じる
- 気持ちに耳を傾ける
- 医師に患者の気持ちを伝える(代弁)
- 医師と話し合う時にはそばで助ける

インフォームドコンセントは 聴くことから始まる



よりよいインフォームドコンセントを実践するためには、
上手な「聴き役」になることが大切

肝疾患患者への インフォームドコンセント ①

- 病期に沿った病状説明（繰り返し）
- 外来通院する意味がわかる
- 治療の経過と治療法の理解
- 自分の経過が予測できる（自己管理）
- 肝機能の低下に適応したライフスタイル
に変更するために必要な情報の提供

肝疾患患者の インフォームドコンセント ②

治療の主役は患者である

1. 自己管理ができる
2. 知りたい情報を得ることができる
3. 医療者とのコミュニケーションができる



自分の価値観
自分の人生観
自分の希望

医療者に伝えること
ができる

医療者は希望に沿った
治療が可能な方法を考える

互いに考え
話し合い自己決定できる支援

おわりに

肝疾患のメンタルケアと
インフォームドコンセントは
どの過程においても、患者を知ることから始まる。
自分の目の前にいる患者が、
どんな思いでいるのか、
今までどんな体験をしてきたのかそして、
患者がどの様に治療しどのように
生活して行きたいのかを知ることが
援助の始まりである。

引用・参考文献

- 黒江ゆり子訳：慢性疾患の病みの軌跡，医学書院，1995
- 氏家幸子監修：成人看護学，廣川書店，2004
- 宗像恒次：ヘルスカウンセリングテキスト，2005
- 中西睦子：インフォームドコンセントにおける患者の決断の“ゆれ”と看護師の対応に関する研究
- 川口順子：C型肝炎に出会って，文芸社，2004
- 『病気とともに生きる』：日本看護協会出版会